

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.1, SEPTEMBER 1984-EKUTEBIAN〉

9



創刊第2号

まい あーと・「水たまり」by 結城公子



敬老の日。もちろん、お年寄りをいたわることも大切、だが逆に実生の経験に学ぶものも多いはず。ここに登場いただいた七人の方々は「年寄りじみた話」が大嫌い、若人顔まけ、八メン六ピの大活躍だ。

天野清助



さん(81歳、曙町二丁目)は、飛行羊羹で基礎をきずいた「松栄堂」のご主人、今でも元氣にお店に立つ。21歳(大正13年)でお店をもつほど才能にめぐまれ、努力家でもあった。現在でも「飛行

最中」が根強い人気。立川在住60年、根っからの立川人を自負しておられる。立川市技術功労賞に輝く天野さんの日課は、誰も通っていない早朝の町内散歩からはじまる。奥さんのサトさん共々、81歳。健康「二人三脚」である。

大貫千代子

さん(82町二丁目)はこの10月で83歳の声をきく。とてもお歳にはみえない、その秘密は子供たちの心を毎日体いっぱい受けとめることにあるのだろうか。若草幼稚園園長。昭和9年以来、幼児教育ひとすじの人だ。退園時には門の前でひとりひとりと握手——
「あいさつで結ぶ心と心」が信条という。進取の精神なお盛んと言ふべきだろう、シナリオを勉強中とか。大作家が期待できそうだ。



林丕沙子



さん(73歳、羽衣町二丁目)もまた、第一線の女流歌人として活躍中だ。「地中海」と「女人短歌」の編集委員をつとめておられ、最近、第二歌集「石花海」

を出版、作家活動に旺盛な意欲をみせている。よく旅へ出る、これも若さの秘けつつか。「旅へ出ると必ず、新しいものの発見がありますもの。物事へ、人々への興味を失ったらおしまいね。人生、おどろきに満ちてますもの」。25歳の時「短歌研究」(改造社)に当選以来、本格的に歌の道を。連作「鷺羽山」から一首いまだこう。「鷺羽山のそひの榛原褐色の花照りあひて 春の日暮し」

古橋一徳



さん(70歳、柴崎町三丁目)は「ハトヤ商事」の経営者として、実業界での成功者というだけではなく、地域社会への奉仕精神は人後におちない。結果、立川商工会議所副会頭ほかズラリと役職が並ぶ。市議員も3期12年をつとめた。よく年令をきかれる。「これでも40は過ぎてますよ」と答えるそう。だ。「黄」なんですが一まわり下にみられたり。外のことには家に持ち込まない、が信条。町内の「第二青春クラブ」で会長をつとめ

詩吟(雪山流)の指導にもあたっている。若やいだ声をきかせてくれた。

市川一郎



さん(75歳、錦町二丁目)の店先にはいぐさの香りが漂う。豊職人として13歳から道ひとすじ。超一流の腕は市技能功労賞、さらに豊職国家試験の委員にもという活躍ぶり。仕事が多い時は

3時起き、市内ならりヤカー引いて届けるという健脚ぶり。市川さんに当分「老後」はないのではないかと。

能崎清次郎



さん(85町三丁目)は立川でも珍しい「オーダーワイシャツ」専門店。今日も元氣にミシンを踏む音がきこえる。「セ

がですすねえ」の答えに「いえ、敗けおしみますよ」の声。兵隊から帰ってきてからズーツとの仕事。東京の浅草・鳥越で修業、戦後立川へ。ごく最近、新式のミシンに入れ替えた。集積回路を使つての新方式に取り組んでいる。若さにあふれる能崎さんなら、すぐに薬籠中の物となりそう。

菊地

慧 さん(69歳、高開口一番、こう話した。「今の若いもんは、なんてことを口にするようじゃダメだね。トシとつたのを認めたようなんだよ。オレは絶対いわない」。なににでも首をつっこむ。何でも行動にあらわす。ゴゴも踊る。写真なんかシヤラクセーと仕事に走る姿は四十前という格好だ。



立川伝言板

☆親子体操教室

羽衣町児童館では東京女子体育大学の宮崎先生を講師として招き「親子体操教室」を開く。9月22日（土）午前10時から12時まで。「親子がいっしょになって体を動かしふれあいの場をもつ」ことを目標に。

☆高松町児童館では「オセロ大会」を

9月22日（土）、午後2時から「第3回オセロ大会」を催す。チャンピオンには賞品あり。

☆「皮の市」「宝石大祭典」など

初秋にふさわしい催しが伊勢丹デパートで、9月11日から17日まで。また、同デパートでは27日から10月2日まで「北海道物産展 諸国うまいもの市」が開かれる。

☆「寅さん」の人気、ますます

寅さん人気の息の長さは驚異的。最新作「夜霧にむせぶ寅次郎」がまたもや涙と笑いを誘いにやってくる。立川松竹映画劇場で、9月14日まで。☆なつかしや、あの「死刑台のエレベーター」が中央公民館で

同じ映画でも、こちらは洋画。しかも1958年、白黒109分、映画史上に残る名作が中央公民館でみられる。9月8日（土）午後2時からと、午後7時からの2回。無料。

☆千葉佳照民謡公演

千葉佳照民謡生活二十周年記念リサイタルが市民会館大ホールでおこなわれる。三波春夫の特別友情出演もあり、豪華ステージは9月9日、12時と4時の2回。入場券問い合わせは、第一デパート、WILL各プレイガイド、立川市民会館受け付けて。

☆ギリシャ神話入門講座を

西砂公民館で来年の2月まで開講。今月は11日と25日の2回、午前10時から12時まで。問い合わせ先 0425-31-0431 北川さんまで。

☆あなたもマジシャン

楽しいマジック技術の習得はいかが。毎月第1と第3水曜日、夜7時から9時、月額千円。問い合わせ先 0425-31-0288 北島勝五郎さんまで。

真如苑 だより

立川の皆さまと共に歩んで四八年、真如苑では皆さまに、より一層のご理解をいたたくたくと、左記の要領で精舎のご案内など企画いたしました。ぜひおこし下さい。

●日時 9月29日（土）午後3時から5時。●御本尊、真如宝物館のご案内をはじめ、映画など盛りだくさんの用意がしてございます。●立川市民（成人）に限らせて頂きます。●お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡ししてくれた人）へ。



であるが、今月は特に、防災の月でもあり、本物の地震がグラツと

国立市、立川市、昭島市が共有する「グラちゃん」の愛称で親しまれている起震車。その名の通り地震を人工的に機械で起こさせる自動車である。



『グラツときたら火の始末』これが思うように出来ないのです。立川養護学校の訓練から。来たとき、あなたはセオリー通りに行動できるかどうか、日々の生活の中で問うておく必要がある。まず、グラちゃんに先生一人、生徒一人ないし二人が組になって乗りこむ。

この車に試乗挑戦したのが都立立川養護学校（羽衣町2丁目、高野信寛校長）の生徒と先生方。毎月おこなっている避難訓練の一環



係の人がいきなり震度4のボタンを押す。全体がきしむような音をたててゆれます。グラちゃんにきたとき、あなたはセオリー通りに行動できるかどうか、日々の生活の中で問うておく必要がある。まず、グラちゃんに先生一人、生徒一人ないし二人が組になって乗りこむ。

①火を消す ②扉を開けて出口を確保する ③テーブルの下に身をよせろ。これだけのことが、震度4の中ではなかなか出来ない。特に①の「火を消す」は絶対条件である。地震そのものの災害よりも、地震が招く火災の方がはるかに多い。そのことを事前に注意されているならば、グラツとゆれる、そのショックで何もかも忘れ、あわてふためいてしまう。



もう一人の「私」指揮者 大友直人さん。日本フィルハーモニーの指揮を終って、楽屋で一服、子供たちの前へでできた大友さんは一変してジーン姿。

そして「思案」よりも「行動」。あなたも一度「グラちゃん」を試みてはどうか。申込先を記しておこう。

▼立川市役所防災安全課（電話0425-2211）あるいは立川消防署（電話0425-0119）



昔なつかしいザリガニをとっていた少年たちがいた。甲州街道の南側、中央高速へ至る間。自然の風物が消えゆく中で、こんな少年の姿をみたら、ありし日のわが身とグブらせている方もあるだろう。帰らない少年の日々よ。

今月号の表紙を飾ってくださった結城公子さんは、すでに13年の経験をもつパンフラワーのベテランである。「ル・モンド・フラワーアカデミー」所属で「立川教室」には20人ほどの教え子がいる。パンをつくる素材が、そのまま花と化すユニークな芸術世界。そこへ結城さんはオリジナリティを加えてきた。

「モザイク仕立てで表現したのは私が初めてだと思います。もちろん一人じめにする気はなく、生徒たちにも教えますし、この夏は軽

お彼岸というと、すぐに思い浮かぶのは、おはぎにお団子、お墓参り、それと「暑さ寒さも彼岸まで」という言い伝えでしょう。お彼岸は、昼と夜の長さが、ちょうど同じになる春分の日、秋分の日の前後7日間、九月は、「秋彼岸」の月です。

さて、この彼岸という言葉は、仏教語の「到彼岸」の略で、梵語ではパラミター（paramita）といつて、波羅密と音訳され、迷いの此岸から悟りの彼岸に到ることを意味するのだそうです。

お彼岸に、先祖の墓参りはつきもの。日頃は信心などまったくない人も、このときばかりは、親戚づきあいのため、ハイキングがてらにといったこともあるにしても、多少は信仰心を發揮して、神妙な顔つきをして、お墓参りをするようです。

井沢で特別の講習もさせて頂きました。今回の表紙では更にタイトルを台にして自分なりの新しい表現を試みたつもりです。パンフラワーというジャンルから飛び出し、意欲をもやす結城さんの表情はあかるい。

定期的な刷り物では2号目が一番むずかしいといわれる。創刊号は鳴りものいりで、ドンチャン騒ぎをしてるうちに出来てしまう。2号は編集者の素顔というか素性というか、ムキダシになる。ヤダなあ。●2号目を称して「2号さんと同じだね」といった先輩編集者の顔を急におもいだした。●指揮者の大友直人さんは、さわやかな新時代のコンダクターだ。立川を訪れてくれた彼に会ってそのことを強く感じた。今までの指揮者

先月号の回答 立川市の木は②ケヤキ（樺）です。昭和49年5月、広く市民に呼びかけ、市長の諮問を受けた市緑化推進協議会（当時、三田鶴吉会長）が答申、同年6月20日に決定されたものです。

立川クイズ 第二回 日本地図の形なら、誰でもすぐに思いつけることができるでしょう。ところが、自分が住んでいる大切な市や町の形は案外おぼろげに思えます。そこで問題です。立川市の地形は次の①②③のうちどれでしょうか。（正解は10月号）

月刊「えくてびあん」第2号 昭和五十九年九月五日 発行 発行所「えくてびあん」編集工房 東京都立川市柴崎町1-2の13 電話 0425-220082 編集人 立井啓介 発行人 沖野嘉男 印刷所 株式会社 立川印刷所 定価 五〇円



今年の夏休みは、立川の皆

さんとつても楽しい音楽会を

開くことが出来ました。日本ワイ

ルハーモニのメンバーと「親と子の

コンサート」で指揮をとらせて頂いた

けてなく、白井京子さんの司会で会場の

お母さんがたや4ピッチ子たちと一緒に「山ぞ

くの歌」や「手のひらを太陽に」など、元気いっ

ぱい歌うことが出来たのもいい思い出です。私

自身、まだ若いですのでこれからが勉強ですけど

子供たちがいい音楽を聴いてもう一つのこと、大切だと

思うんです。子供は音楽の天才です。この「親と子のコ

ンサート」、私は昨年を引き

続いて二度めですが来年も

きたいですね。また会いま

しょう！

指揮者

大友良人

